

文化・芸術

「顔」部分

1938年ごろ、インク・紙
27・2枚×36・5枚（寄託作品）

松本竣介（1912～48年）

この素描を見て、松本竣介画といわれたら、驚く方も多いでしょう。こちらは、竣介がジョージ・グロスの風刺画を模写したものになります。

松本竣介は「無産階級の画家 ゲオルゲ・グロツ」(柳瀬正夢編著、鉄塔書院、1929年)に収録されている作品図版の中から多くの人物を模写しています。こちらの眼鏡をかけた人物、葉巻のようなものをくわえた人物についても、本に収められている図版のうち、「前庭」(21年)にでてくる人物を模写したものであると特定することができます。

本の中には、第1次世界大戦後の混乱期の大都市に生きる人々の姿、とくに風俗を痛烈な風刺を込め線描によって描き出したグロスの作品が多数掲載されています。竣介はこうしたグロスの模写から線描による人物表現の一端を学んだものと思われませんが、竣介の描く人物像は風刺ではなく、都会風景のモダンさを生み出すための表現へとつながっていくようです。

(池田)

《名画の扉》

大川美術館常設展示から

